



FIWA®マンスリー・セミナー講演より 達人たちの投資哲学

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

伝説の投資家と呼ばれる人たちの投資哲学についてお話をします。有名な人にはバフェットさんやピーター・リンチさんなど、いろいろな人がいます。どの人も哲学を持っている。彼らなりにマーケットをどういう切り口で見たら自分の投資に役立つか、自分の成果が上がるのか、はっきり理解をして、そこを極めていきます。



概してマーケットが自分のやり方に合わない時は、防衛的な大きく負けないポートフォリオにして、自分のやり方に合っている時は積極的に出る。そういうことをやっている人が多いと思います。達人という人たちは、私の印象では絶対的な自信を持っていません。自信過剰になっていないのです。自分が間違える可能性もあることを前提におき、その時でも致命傷にならないような手を打ちながら、自分の最高の力が出せることをやっています。そういうところはやっぱりプロだなと思います。素人さんこそ自信を持って『こうに違いない』と思い、そこに全部かけてしまうことになりませんが、プロにはそんな人はいません。間違ったときのことを考える。

不易流行という言葉があります。不易というのは変わらないということです。投資哲学は変わらない。流行は流れゆくもの。短期的なマーケットの状況です。投資信託などで我々が達人たちの運用をどう使うのかは、さまざまな投資哲学を自分のニーズにあわせてどう使うのかということにあると思います。

価値と価格の違いを理解することはとても大切です。現在の価値よりも価格の方が高い場合、バリュート分析で見ればあまり魅力がないわけです。しかし、グロース戦略で見た時は、何年後かに価値が価格よりも大幅に高い位置にいくと予想できるなら、現在は株価が価値より高くても、今は安いと判断することもあり得るわけです。逆もしかりです。

バリュート分析でいえば、現在の価値よりも現在の価格が安ければすごく魅力があります。しかし、この会社の今後の成長はないと考え、将来の価値は現在の価格よりもずっと下に下がってしまうと判断したときは、将来を考えた場合、現在の価格でも高いわけです。結局、価値と価格はどこを





FIWA®通信「インベストラ이프」

見るのかということですが。バリュー型のファンドマネージャーに言わせれば、「予測というのは、当たるか外れるかわからない。世の中、何が起こるのかわからないではないのか。だから現在の価値で見ればいいのではないのか」ということになります。しかし、グロース型にとっては、「世の中どんどん変わっていくのだから、この価値がこれからどうなるかを考えるべきだ。それであればできる限り予測をして、それを修正しつつ将来をみて、その将来の価値と現在の価格を考えるようにすればいいのではないのか」ということになります。

いずれにしても、価値と価格を比較しているという点では同じです。現在の価格をどこの価値と比較するのか。今の価値なのか、将来の価値なのか。それによって、バリュー分析かグロース分析かという分かれ方になると思います。

ピーター・リンチさんは、私にとって忘れられない人です。私自身、リンチさんにプレゼンをしたことがあります。終了後、本当にながっくり疲れたと思うほど厳しい質問がたくさん来たのを覚えています。私の日興時代の先輩である故三原淳雄さんは、ピーター・リンチを日本に紹介する本を書かれています。三原さんが、ある日、ボストンでピーター・リンチを訪問する際に乗ったタクシーの運転手さんが、三原さんがリンチさんに会いに行くことを聞き、「『リンチさん、あなたのおかげで自分の資産を少し増やすことができました』と、自分のような運転手が彼に感謝をしているということをリンチさんに伝えてくれ」と言われたそうです。

日本でも、タクシーに乗った時に運転手の人が、『あなたが〇〇ファンドの社長に会うことがあったら、ぜひありがとうございます』と言われるような、そういうファンドや、ファンドを運用するファンドマネージャー、経営者など出てきてほしいですね。そういう何か温かみがある、感謝されているそんなファンドが良いファンドだと言えるでしょう。

感謝というのは、投信を設定して3か月後にくるものではありません。最低10年、20年、30年たった時に、やっぱりやっぱりやっぴりよかったなと思えるファンドが感謝されるファンドです。10年、20年、30年の間に相場はいろいろな変動があります。それを間違えなくきちんと支えていけるようにしてあげるという役割は、販売員ではなくて、本当の意味でのアドバイザーの役割だと思います。そういう人たちが増えていくことで、日本の抱える本当に大きな問題である、生活者の退職後の資金をどのように手当てをしていくのかという問題も解決につながっていくのではないのかなと思います。

講演では、アナリストの父と言われるベンジャミン・グレアム、ジョン・バー・ウィリアムや、成長株の元祖であるT・ロー・プライス、ジョン・M・テンプレートン、ウォーレン・バフェット、ピーター・リンチ、世界で初めて年金向けのインデックス運用を行ったフレデリック・グラウアー、バンガードのジョン・ボーグル。最後にピーター・リンチと、伝説の投資家たちの投資哲学であり人生哲学について興味深い解説をしてくださいました。